

シリーズ：進化し続ける産総研のコーディネーション活動(第53回)

バリューチェーン・コーディネーション

イノベーションコーディネータ みやけ まさと
三宅 正人

新技術とバリューチェーン

製品製造、運搬、販売やサービスの提供から顧客のメリットに至る利益の連鎖はバリューチェーンと呼ばれています。企業は自社と取引先によって構成されるビジネス・エコシステムの中で形成しうるバリューチェーンを意識した技術開発を行うことが多いと思います。他方、マーケットをもたない産総研における技術開発の多くは、アカデミアと同様にバリューチェーンを意識していません。企業が産総研の技術の導入を検討する場合、企業のエコシステムの枠を超えたバリューチェーンの構築が求められ、それが技術移転の障壁になることが多いのではないのでしょうか。私はこの障壁を超える仕組みの必要性を感じていました。

ベンチャー起業経験からの学び

私は米国サンディエゴのスクリプス研究所で新しい遺伝子導入原理を発見し、2001年に帰国しました。産総研において私の研究チームは4年かけてその原理を応用したハイスループット遺伝子機能解析技術を開発し、2004年に創業支援ベンチャーを起業しました。

会社が提供したいサービスを事業化するためには、自社技術を活用するためのシステムに必要なパーツを供給していただける会社を探さなければなりません。また、小さなベンチャーが海外を含む多数の顧客に情報発信するためには営業を代行していただける会社を探さなければなりません。ビジネスではベンチャー事業への協力を求めるとき、

相手のメリットを金額で示さなければなりません。

ベンチャー創業から事業開始に至る一つ一つの経験からバリューチェーンとは何かを学んだと同時に、バリューチェーンは新たに組み立てられることも学びました。さらに、バリューチェーンを組み立てる過程では新たな技術ニーズが必然的に現れ、産総研との連携機会が得られることも学びました。

イノベーションコーディネータとしての抱負

ライフサイエンスに関わってきた私は健康の維持・増進に関わる産業に興味をもっています。特に生活習慣病の増加による治療費の増大は世界中の問題であり、それを解決へと導く事業は国内に留まらず世界を市場とすることができるでしょう。

健康維持・増進に資する製品・サービスは実に範囲が広く多様であり、ヘルスケア分野はそのごく一部にすぎません。自動車メーカーや建設会社などが強い関心を抱いていることからわかるように、あらゆる産業領域からの参入が可能なテーマです。

現在、健康維持・増進に関わるバリューチェーンは世界的に変革の過渡期であり、混沌としています。私は起業を含むこれまでの経験とコーディネータのエコシステム、産総研の産学官連携制度などを活用し、付加価値の大きい健康維持・増進事業の実現のためのバリューチェーンを国境にとらわれずコーディネートしたいと思います(図1)。

健康維持・増進分野で事業化を考えている方、技術を事業化したい方はぜひお問い合わせください。

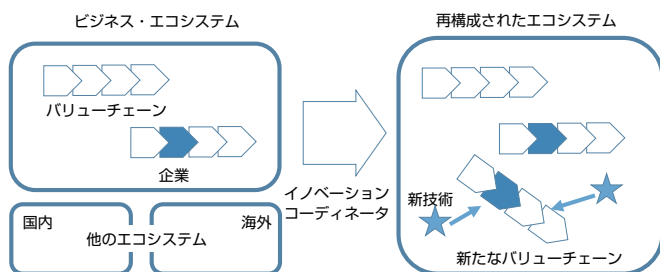


図1 新しいバリューチェーン構築に必要なエコシステムの再構築とイノベーションコーディネータ機能
エコシステムとは、企業とその企業の取引先によって構成されるネットワーク。



図2 国際連携の打ち合わせに出席する執筆者(手前側の一番左)